

# 学びの舎をあとに

## 市内4高校で最後の卒業式

市内4高校（県立鷹巣農林、県立鷹巣、県立米内沢、市立合川）が統合し、4月に県立秋田北鷹高校が開校するため、最後の卒業式が行われました。

### 市立合川高校では

市立合川高等学校（齊藤和彌校長、生徒数162人）の卒業式が3月3日、同校体育館で行われ、同校最後の卒業生61人が思い出と誇りを胸に刻み、新たな一歩を踏み出しました。



▲卒業生を代表し榎岡海峰さんが答辞（合川高校）

同校は、昭和37年に秋田短期大学附属合川高等学校として旧合川町に開校し、同39年には秋田経済大学の設置に伴い、秋田経済大学附属合川高等学校と改称。同46年に秋田経済大学から一部事務組合への移管が決定され、同47年に秋田県公立合川高等学校として開校。平成17年には町村合併により、一部事務組合を解散し北秋田市立合川高等学校に改組されました。同校の卒業生はこれまでに6826人を数えています。

### 歴史と伝統を締めくくる最後の卒業生として誇りを

式典では、普通科（25人）、情報ビジネス科（15人）、介護福祉科（21人）のそれぞれの代表に齊藤校長が卒業証書を授与し、「本校は一貫して豊かな人間性の育成を重点とし、スポーツや文化活動を大いに推進してきたところであり、卒業生の活躍は本校最後の伝統として、在校生の秋田北鷹高



▲92人に最後の卒業証書（鷹巣農林高校）

校での活力となることでしょう。入学以来、自律・友愛・創造をモットーに修練を積んできたはずです。社会の荒波に船出しようとするみなさんには勇氣と忍耐をもって自らの人生を切り開き、邁進されるよう切望します。卒業生のみなさんの前途に幸多からんことを祈念します」などと式辞を述べました。

来賓として、津谷市長は「皆さんは、開校以来49年にわたり輝かしい歴史と伝統を積み重ねてきた合川高等学校を締めくくる最後の卒業生となります。この大きな節目の時に卒業できる巡り合わせを誇りとし、今後それぞれが大きな可能性に向かってまい進されることをご祈念します。何事にも果敢にチャレンジし、自らが信じる



▲116人が思い出を胸に（鷹巣高校）

道を力強く歩まれ、将来の夢を着実に実現されますことをお祈りします」などと祝辞を述べました。各教室では保護者も交えて最後のホームルームが行われ、卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡され、恩師や在校生と最後の別れを惜しみ、思い出を胸にきざみながら最後の学び舎をあとにしました。



▲28人が最後に校歌を（米内沢高校）

## 市内各小中学校でも 思い出を胸に卒業式

市内中学校全5校の卒業式は、3月11日に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震の影響で、期日を変更し、3月13日に鷹巣中学校と合川中学校、3月14日に鷹巣南中学校、3月19日に森吉中学校と阿仁中学校で実施されました。

今年度の卒業生は鷹巣中が112人、合川中50人、鷹巣南中50人、森吉中65人、阿仁中18人の計295人。

このうち鷹巣中学校では、卒業生、在校生、教職員、来賓、保護者が出席し、体育館を会場に式典が行われ、伊東篤校長が一人一人に卒業証書を授与し、「4月から皆さんは、

自らの意志で選んだ道をそれぞれ歩むこととなります。その道は今回の地震のように予期せぬ事に出会うこともあるかもしれない。どのような困難にぶつかっても的確に判断し、決してくじけることなく、その困難に立ち向かい自分の力で自分の道を切り開いてほしい」などと式辞を述べました。式典のあと、卒業生や保護者は各クラスで担任らとの最後の別れを惜しみ、3年間の思い出が詰まった学び舎を後にしました。また、市内小学校15校の卒業式は、3月13日から17日に行われました。卒業生は全校合わせて304人です。各学校では全校児童による呼びかけなどで、思い出や感謝の気持ちを伝え合い、在校生や保護者らが見守る中、小学校生活の思い出と4月からの中学校生活への希望を胸に母校を巣立ちました。



▲卒業生が心一つに「卒業の歌」（鷹巣中）



▲在校生や保護者らが祝福（鷹巣小）

## 3・11 東北地方太平洋沖地震 市では災害対策部を設置 大きな被害なし

3月11日午後2時46分に震度4の地震が発生したことを受け、午後2時48分に「北秋田市災害警戒部」を設置しました。災害警戒部では、第1に市民の安全を考え、高齢者の安否確認や被害状況など情報収集に当たりましたが、市内全域が停電し、復旧のめどが立たない状況であったことから、午後5時に「災害対策部」に移行し、引き続き公共施設や道路等の被害状況の把握や、各自治会長への停電などの情報提供、断水した地域への給水など対応に努めました。

幸い、当市では人的被害や物的被害はなく、その後、停電や断水も復旧したことから、13日午前8時20分をもって、「災害警戒部」に切り替えて、現在も事態の推移を見守っています。

今後もし引き続き情報の収集に努め、市民のみなさんの不安を少しでも軽減できるよう取り組むとともに、県との連携を図りながら被災地へのできる限りの支援や避難者の受け入れ等、様々な要請についても迅速に対応を検討していきます。

今回の大地震は三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の国内観測史上最大といわれ、甚大な被害を受けた地域の皆様にお見舞いと1日も早い復興をご祈念します。



▲被害状況などの情報収集や対策を協議